



札幌東支部

前田 泰則

Yasunori Maeda

「骨切り術」と聞いて、何を思い浮かべますか。バラバラ事件、必殺仕事人、とんこつスープなどなど。残念ながら、いずれのことでもなく、骨を切る手術の手法「骨切りの術」のことです。O脚などの重心が足の中心ではなく、内側になっている場合、軟骨の内側がすり減り、それがなくなると骨と骨が重なり、強烈な痛みや炎症となります。最終的には人工関節へと進行していくため、それを未然に防止する手術です。

方法は、膝から少し下の骨を横に切り、下の方の骨を少し斜めに角度を変え、その隙間を自分の腰の骨を移植する方法です。移植した骨が飛び出ないようにプレートを当て、ピンでとめます。重心は足の中心になります。

別な言い方をすると、木を曲げるためには温めて曲げますが、骨は固いのでそうはいかず、骨にくさびを打つイメージです。

手術はなるべくやりたくなく、リハビリで何とかしようとしたのですが、この先の長い人生のことを考えると、そうもいかず、結局20日ほどの入院をしての治療となりました。

いくら最新の医療でも、人工的な骨折です。なまじっか痛いんです。

手術の次の日から午前・午後それぞれ1時間半のリハビリ、壮絶でした。痛いし、腫れ

るし。本当に一時はどうなることかと思いましたが、でも不思議なもので、次第に痛みは少しずつやわらぎました。

そんな折、ある人から「今度のマラソン大会、団体での参加だけれど、2キロほど走れる?」と言われ、快く、「はい、頑張ります」と、即答してしまいました。というのも、重量級の体にもかかわらず、もともとランニングは苦ではなかったからです。

その後、膝のプレートも外れ、無事にマラソン大会を走りきることができました。

と、そんな手術からもう一年以上経過しました。何事もなく日々、過ごしてはおりますが、あの痛みは一生忘れることはないでしょう。こんな症状にお悩みの方。「骨切り術」いかがでしょうか。

eたーい話でした。